

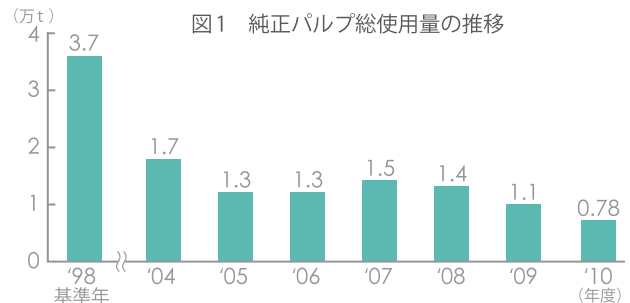


取り組み方針

NTT西日本グループでは、「2010年度に、純正パルプ総使用量を4.0万t以下にする」ことを中長期の行動計画目標に掲げて取り組みました。2006年度時点において2010年度の「純正パルプ総使用量に対する目標値」を大幅に達成したことに加え、紙資源の利用で大半を占める電話帳に関する古紙配合率が技術的に限界に達していること、また事務用紙の再生紙購入が100%定着したこと等から、引き続き純正パルプ総使用量の管理を行い、更なる削減に努めることとしています。

2010年度実施結果

2010年度の純正パルプの総使用量は、0.78万tとなりました。2009年と比べて、電話帳における古紙配合率の比率が大幅に向上し、純正パルプ使用量の削減に繋がりました(図1)。



電話帳における再生紙利用

NTT西日本では、1年間に約4,915万部の電話帳を発行しており、紙の総使用量は約2.6万tに達します(図2)。

これだけ紙を使う電話帳だからこそ、環境に配慮した様々な取り組みを合わせて行い、電話帳事業活動とその環境負荷低減の両立を図っています。具体的な取り組みはエコチャレンジ!電話帳*のホームページでも紹介しています。

※ エコチャレンジ!電話帳

エコという言葉でエコロジー=環境を表現し、チャレンジという言葉で行動姿勢を表現したもので、環境への積極的な取り組みを行うことを宣言するスローガンです。
ホームページ <http://eco.tpnet.nttds.co.jp/>



純正パルプの使用量削減について

純正パルプ使用量の削減に向け、電話帳の発行にあたっては過去から様々な取り組みを実施してきました。

電話帳用紙は、木材チップを原材料とした純正パルプ*と、古電話帳等を原材料とした古紙パルプをブレンドして作られています。純正パルプの使用量を抑制し、古紙の割合を増やしていくことに最も力を入れています(図3)。

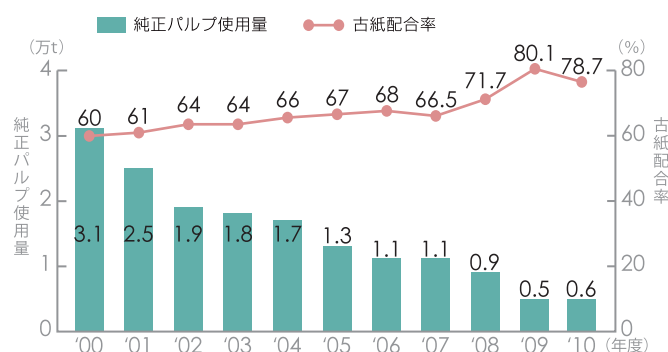
また、電話帳の発行部数の適正化を図る為、新しく電話を引かれるお客様や引越しをされるお客様には電話帳の要否確認の徹底を図り、ご不要なお客様には配布を控えていただいています。更に、ハ

ローページを企業名編と個人名編に分冊し、個人名編については、事前にお客様のご要望を確認したうえで配布させていただき取り組みを2001年7月より実施しています。

また、2003年度から、従来のタウンページを「必要な人に、必要な情報を」をコンセプトに、日常生活でよく利用される業種を掲載した「デイリータウンページ」と、事業活動で利用されるB to B関連業種を掲載した「ビジネスタウンページ」に分冊しました。「ビジネスタウンページ」については原則事業所のみへの配布としたことで、電話帳用紙の削減に繋がっています。

2011年度も継続的な削減に努め、2010年度実績の0.6万t以下を目標に取り組んでいきます。

図3 電話帳純正パルプ使用量と古紙配合率の推移



※ 電話帳用紙の品質を一定以上に保つ為、純正パルプの使用は必要不可欠ですが、森林資源の直接消費を抑える為、家を建てる際に使用された木材の残材等を使用しています。

木材チップ





電話帳リサイクルの推進

「電話帳クローズドループリサイクルシステム」を確立

古い電話帳を新しい電話帳用紙に再生する循環型リサイクルシステムとして「電話帳クローズドループリサイクル」を確立しました(図4)。

クローズドループとは、閉じた輪、つまりあるものを同じものに再生していくリサイクルシステムのことで、資源の無駄を最小限にするシステムとされています。回収した古い電話帳を古紙パルプとしてリサイクルすることで新しい電話帳に再生しています。

このシステムを実現する為、第一段階として、白色用紙を使った電話帳[※]の発行を2000年2月から始め、2001年3月には全ての電話帳がこのタイプに切り替わりました。

図4のように回収された電話帳は製紙会社で電話帳用紙に再生され、印刷・製本を経て、新しい電話帳に再生されます。全国のお客様にご利用いただいている電話帳は、このような仕組みで再びお客様のお手元に届けられます。白色用紙で作られた電話帳を回収し、その電話帳を再生紙として使った新しい電話帳は、2001年9月から発行しています。

新しい電話帳をお届けする際にご利用期間の過ぎた電話帳の回収を行ってきましたが(図5)、今では、品質改良により古電話帳も一般の古紙等と同じようにリサイクルできるようになったことから、今後は、回収方法の見直しとあわせ、CO₂排出量の削減に向けた取り組みの実施等、環境にやさしい地域社会づくりに貢献していきます。

図4 電話帳クローズドループリサイクル

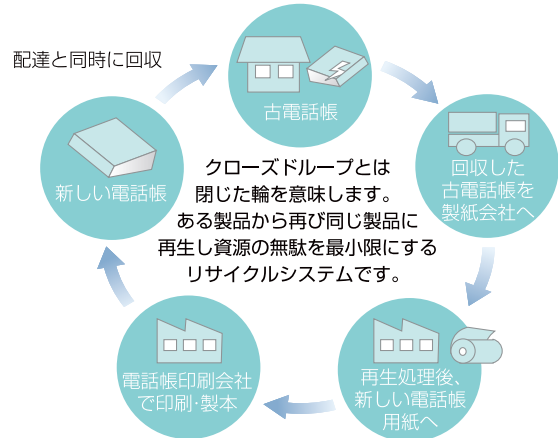
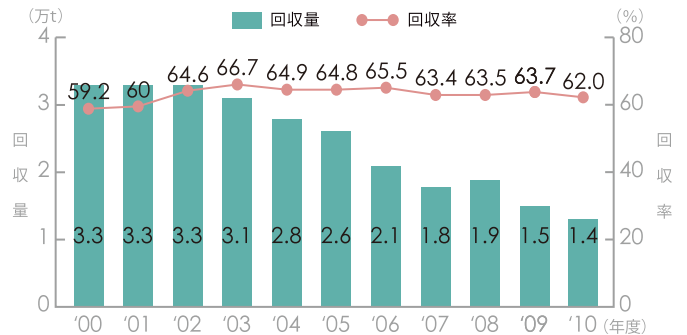


図5 古電話帳の回収量と回収率の推移



※ 白色用紙を使った電話帳

職業別電話帳は世界各国で「イエローページ」と呼ばれており、その名の通り黄色用紙が使われています。NTT 西日本の職業別電話帳(タウンページ)も、日本版イエローページとして黄色の染色再生用紙を使用していましたが、電話帳用紙に再生する場合、完全脱色ができないことが問題でした。この為用紙自体を白色再生用紙に替え、白色用紙に黄色のインクを塗布することで黄色の紙面を作る方式を採用しました。

* タウンページセンタ

TEL : 0120-506-309 (平日9~17時、土曜、日曜、祝日、年末年始は休業)
FAX : 0120-817-548 (24時間)

電報台紙における再生紙利用

NTT西日本では、電報台紙の紙部材への再生紙利用促進を図り、純正パルプの使用削減に取り組んでいます。電報メッセージをパッケージングする電報台紙は、慶祝・弔慰・一般紙を合わせ70種類(2011年3月末現在)あり、紙を使用したものや布地を素材としたものがあります。2010年度に取り扱った電報通数は678万通(全国1,279万通)に上り、このうち紙製電報台紙による紙総使用量は592tです。電報台紙等への再生紙導入の取り組みとして、紙製電報台紙を用いた新商品の開発時や、既存台紙のリニューアル時に古紙配合率を上げる等の取り組みを進めてきました。

商品の紙質材料に配慮することにより、2010年度は、紙製電報台紙の純正パルプ使用量の年度目標値(72t)に対し、使用量実績は5t(対目標値67t減)となり、目標を達成することができました。また、紙総使用量に対する古紙配合率は63%となり、前年度の古紙配合率(63%)を維持することができました。

2011年度は、更にお客様ニーズに合致した新商品を発売予定であり、引き続き、開発にあたっては再生紙利用をはじめ、環境に配慮した紙部材の使用にも努めていきます。

主に紙部材を使用した電報台紙の他に、「キティちゃんDENPO」、「ディアダニエルDENPO」、「ドラえもんDENPO」、「ミッキーマ

ウスDENPO」、「ミニーマウスDENPO」、「 دونالدダックDENPO」、「ディジーダックDENPO」、「くまのプーさんDENPO」等の布地を素材としたぬいぐるみ型の電報台紙があり、これらの本体の生地には、1974年度厚生省令第34号アセチルアセトン法(ホルマリン含有量75ppm以下)に適合したものを使用する等、環境に負荷を与えない素材を使用しています。また、メッセージを入れる紙筒にも再生紙等の環境に優しい紙部材を使用する等、純正パルプ使用量削減にも取り組んでいます。

今後も電報台紙の開発については、再生紙をはじめ、「環境負荷のより少ない素材」を使用する取り組みを推進していきます。

刺しゅう電報「菊雪花」(弔慰用)



刺しゅう電報「松竹梅」(慶祝用)



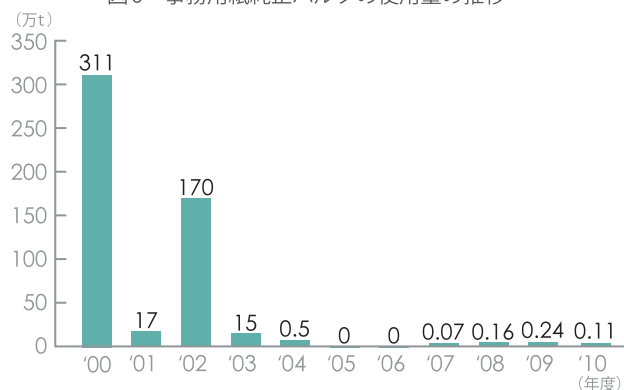
事務用品の純正パルプ使用量削減

事務用紙については、100%再生パルプを用いて製造された再生紙に切り替えています(図6)。2008年度からは環境配慮パルプ*を純正パルプとして計上していることにより使用量は増加しています。今後も純正パルプ使用の低減の取り組みを継続して実施していきます。

※ 環境配慮パルプ

- ・原料産出地(木材伐採地)の法律・規則を守って生産されたものです。
- ・森林環境に配慮した「森林認証材」や「植林材」、資源の有効利用に資する「再未利用材」が原材料のものです。
- ・塩素ガスを使わずに漂白されたものです。

図6 事務用紙純正パルプの使用量の推移





請求書等の紙資源削減の取り組み

NTT西日本では、電話料金等を口座振替もしくはクレジットカード決済でお支払いいただいているお客様へ、書面でのご案内に替えて、インターネットで「ご利用料金のお知らせ」等をご確認いただけるサービス「Myビリング※」(会員サービス)を推奨しています。

このサービスによって請求書や封筒等の紙資源の削減に努めた結果、2010年度の紙の削減量は236.8t、「Myビリング」の加入者は155.8万人となりました(図7)。

※ Myビリング(会員サービス)

- ・インターネットご利用時に必要となる接続費用はご利用者ご自身の負担となります。
- ・「ご利用料金のお知らせ」、「領収金額」を1ヵ月ごとに12ヵ月分照会できます(Myビリングご契約前のご利用料金は照会できません)。

図7 Myビリング加入者数及びそれに伴う紙の削減量

